

第 8 回

せるてQuiz

presented by

大海 忍

東京大学医科学研究所

<http://www.ims.u-tokyo.ac.jp/ohmiken/index.htm>



問題

次の単語は、教科書や学术论文に出てくる言葉（最近の造語も含む）です。

ご覧になっておわかりと思いますが、一定の法則にしたがって集めたものです。

apoptosome chromosome degradosome endosome liposome lysosome microsome
nucleosome peroxisome pinosome phagosome proteasome ribosome signalosome
transcriptosome

このなかで、辞典に載っている単語にもかわらず、最近ではあまり使われなくなってきたものはどれでしょうか。

ヒント!

まずは、辞書で意味を調べてみましょう。

• 答え •

アクセスはコチラまで!



<http://gakken-mesh.jp/journal/saibo/>

※『細胞工学』各月号ページの「関連リンク」欄から解答のPDFをご覧になれます。

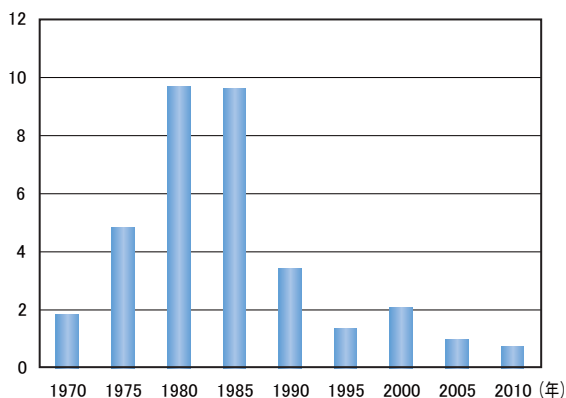
せてQuiz^{クイズ} 第8回

• 答え •

microsome

解説

ミクロソーム (microsome) は、組織や細胞のホモジェネートから核・ミトコンドリア・リソソームなどの重い成分を低速遠心で除いた上清を、超遠心分離 (100,000 × g, 1 時間) にかけて沈殿してくる、小胞体を多く含んだ画分です。この分離法は 1940 年代に Albert Claude 博士が確立したもので、このとき “microsome” という名前がつけられました。すなわち、実験法に由来する言葉なのです。その後、生化学実験の全盛期には、この方法で “subcellular fraction” を調製することがはやり、「ミクロソーム電子伝達系」などはその延長上にある研究です。そして、細胞の中にあたかもミクロソームという小器官が存在するような言い方をする研究者もいたので、間違って理解しがちでした。最近では、細胞内局在を生化学的手法だけに頼ることなく調べられるようになり、ミクロソームは次第に使われなくなりつつあります (図 1)。“……osome” は何らかの機能を持った集合体をさして作られる造語であることが多いですが、問題文に列記した単語を 2011 年以降に絞って Google Scholar で検索すると、上位 5 番以内は “chromosome” がトップで 2190 件、2 位が “proteasome” で 662 件、以下 3 位 “peroxisome” (574 件)、4 位 “liposome” (404 件)、5 位 “nucleosome” (234 件) という結果でした。



■ 図 1 医学・生物学分野の論文 10 万本の中で、タイトルが “microsome” を含む論文が占める数の推移 (5 年ごとの PubMed 検索結果)